ごあいさつ

本田技研工業株式会社　専務執行役員
安全運転普及本部本部長
峯川 尚

日頃からHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。本年は私どもの中期3ヶ年計画の初年度ということもあり、今まで継続してきた活動の強化と新たな取り組みに着手してきました。これも皆様のお力添えがあっての賜物と、この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

私どもは、「Safety for Everyone」をグローバル安全スローガンとして定め、「ヒト」「テクノロジー」「コミュニケーション」という3つの領域を進化、相互に連携させることによって、運転者のみならず、歩行者・自転車利用者・高齢者など交通社会に参加するすべての人の安全をめざしております。

日本における交通事故の情勢を見てみますと、平成25年は交通事故発生から24時間以内に亡くなられた方は4,373人と13年連続で減少するとともに、負傷者数、交通事故発生件数も9年連続で減少しました。これは「世界一安全な道路交通」の実現をめざし、交通安全に関わる官・民はもとより、交通社会に参加する一人ひとりの努力の成果であり大変喜ばしいことと思います。しかしながら交通事故による死傷者数は78万5,867人と依然厳しい状況であり、官・民それぞれの取り組みに加え、さらに官民が一層連携した交通安全対策が必要だと考えています。

先日、私どもは「Honda SENSING（ホンダ センシング）」と総称する安全技術を発表いたしました。Honda SENSINGは、外界の検知情報を基に運転支援や事故回避をサポートする先進運転支援システムです。事故減少にこれらの技術が貢献するためには早く、広く普及することが必要ですが、同時にお客様にも正しくその技術や機能を理解していただかなくてはなりません。こうした安全技術の更なる進化と普及拡大、そしてそれらを正しく伝えられる環境作りを通して、安全に寄与できるように努めてまいります。

また、事故情報や急ブレーキ多発地点、生活者の皆様が持っている情報を「見える化」し、安全な街づくりに貢献するための基盤づくりとしてインターネット上に「SAFETY MAP」を昨年一般公開しました。アクセス数や投稿数も増えてはいますが、更に活用を拡大していくため、今年度は危険な道路環境の改善に向けた提言活動をスタートいたしました。具体的には、「SAFETY MAP」に示される交通上の危険が潜む地点に足を運び、実際の交通環境を確認した上で、Hondaの交通安全情報紙「SJ」に事故防止についての考察も含めて連載を始めました。今後の提言活動に、関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

これらは単に「テクノロジー」領域や「コミュニケーション」領域だけの取り組みに止まらず、「ヒト」領域、つまりそれらを伝える人、理解して使う人がうまく機能することによって、より効果が発揮されるものです。

すべての人が心から安心して、どこへでも自由に移動することができる社会を実現していくためには、健常者のみならず、身体に障がいをお持ちの方の移動を支援するプログラムや機会の提供なども大変重要であると考えています。今年度は、身体に障がいをお持ちの方が運転を通して社会復帰できるような支援の拡大を進めています。

また、今後の高齢化社会の進展に伴い、デイケアセンター等の利用者も増加し、そのための高齢者の送迎の機会も増えてまいりますので、安心安全に移動していただく環境作りにも、積極的にチャレンジしてまいります。

今後も安全運転普及本部は、「ヒト」領域の観点で「人から人への手渡しの安全」と「危険を安全に体験する参加体験型の実践教育」という発足当時からの基本の考え方に基づいて先進性・独自性のある教育プログラムや機器の開発により、効果の高い交通安全教育を提案できるよう、行政、地域の皆様などと連携しながら、「事故ゼロのモビリティ社会」の実現に向け、安全への取り組みを一層強化してまいります。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Hondaへの変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Safety for Everyone
すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使うだれもが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたい。Hondaは、その実現に向け、安全の知識や運転技術をたくさんの「ヒト（ソフト）」に伝えること、安全に関わる「テクノロジー（ハード）」の開発、さらには安全情報を伝えあう「コミュニケーション」を推進する活動に力を尽くしていきます。

その「ヒト（ソフト）」の領域において、子どもから高齢者まで各年代に応じた交通安全啓発活動を地域社会と一体となって進めることが必要と考え、積極的に取り組んでいます。

安全運転普及本部の活動

Hondaの安全運転普及活動は、人に焦点を当てた「人から人への手渡しの安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を基本に、活動の三本柱として、人づくり、場づくり、ソフトウェアの開発に取り組んでいます。

人づくり

交通安全を伝える指導者を養成しています。

効果的に交通安全教育を行い、活動を広げるためには、それを実践する指導者が必要不可欠です。そのため、Hondaは手渡しの安全の担い手である指導者の養成に積極的に取り組んでいます。また、活動に賛同してくださる企業・地域・自動車教習所などの方々へ、要望に応じて指導ノウハウを提供するなど、指導者養成を支援しています。

場づくり

交通安全を考え、学ぶための「場」と「機会」を提供しています。

交通ルールやマナー、安全運転について日常的に考え、学ぶための「場」と「機会」をお客様や地域の方々へ提供しています。例えば、親子で学べる交通安全教室や危険を安全に体験していただく参加体験型のスクール、受講者同士の話し合いの中から自分の交通行動を振り返る講習など、様々な学びの「場」と「機会」を創出しています。

ソフトウェアの開発

学習効果を高めるための「教育プログラムや教育機器」を開発しています。

安全教育の現場でご活用いただける教育プログラムや教育機器等、「ソフトウェアの開発」も安全運転普及本部の重要な活動の1つです。本人の気づきを促す各種交通安全教育プログラムや、危険を安全に体験いただける各種シミュレーターなど教育機器の開発に力を入れています。

安全運転普及本部の活動体制

できるだけ多くの人に安全教育に参加してほしいから、活動の場を広げています。

安全運転普及本部では、各年代に応じたきめ細やかな安全運転普及活動が行えるよう、活動体制を整えています。それぞれの活動拠点に、役割に応じた専任のインストラクターやスタッフを配置し、皆様に交通安全教育の「場」と「機会」を提供したり、関係諸団体と連携した交通安全普及活動に取り組んでいます。